



3. 11アオーレ前・宣伝行動に反響 1万円をカンパする男性も！



原発ゼロ長岡市民ネット結成以来毎月11日に行ってきた街頭行動は、3月11日で75回目。今回は8名の参加で、原自連の「原発ゼロ法案」の骨子と、「柏崎刈羽原発からの距離シール」申込みを両面に印刷したチラシを配布しました。

3月11日は日曜日ということもあり、チラシを受け取る人が多く対話になる人もいました。その中で一人の男性が「これを役立ててください」と1万円をカンパ。原発ゼロを願う市民の思いにふれ、一同とても感激しました。

また、3・4のつどいに「これから先の行動が見えてきて明るい気持ちになった」と感想を寄せた会員のOさんから、「久しぶりに11日行動に参加しようとした矢先に来客のため行けず残念」との連絡をいただきました。

街頭行動にあなたもぜひご参加を。

【4月の街頭行動】

★4月11日（水）

午後4時30分～5時30分

アオーレ前

※平日は4時30分から、休日（12時から1時間）を上記のオリジナルワッペンをつけて行動しましょう。



『3・4市民のつどい』に1100人超

「希望がいっぱい持てた」など感動の数々…



3月4日（日）アオーレ長岡で開催した「福島原発事故から7年」とも考える市民のつどい」には180人を超える人たちが参加。

第一部は映画「日本と原発4

年後」ダイジェスト版の上映。続いて第二部は原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）幹事の鎌田慧さん（ルポライター）、佐々木寛さん（新潟国際情報大学教授）をパネリストにシンポジウムを行いました。

鎌田さんは、7年経っても故郷に戻れない悲惨な実態、莫大な金と権力で原発を作ってきた経緯を怒りを込めて語り、原自連が発表した原発ゼロ法案の意義を強調。原発ゼロ運動は、国が減びても大企業がもうかればよいという亡国の危機から人間として脱しようとする運動であり、力を合わせようと呼びかけました。

佐々木さんは、米山知事が公約通り「三つの検証委員会」をつくり自治体として包括的検証を進めるのは歴史的事業だと評価。福島原発事故とは、天災、人災、文明災とも言えるものだと述べ、エネルギーデモクラシーの大切さを強調しました。

新潟で自然エネルギーの地産地消をめざす「おらつてにいがた市民エネルギー協議会」の取り組み、ドイツなどの先進的状況、ソーラーシェアリング（田畑などの上に太陽光発電）などの創意ある試みを紹介。中央集権的なエネルギーの分配に頼るのではなく、自治体と市民社会が自立して共同で新しいエネルギー社会をつくっていくこうと語りかけました。

参加者からは「目からうろこの話がいっぱい」「希望がいっぱいもてた」などの感想が寄せられました。（感想を裏面に紹介）
3/9野党4党「原発ゼロ基本法案」国会に提出！

力をあわせ、原発ゼロ・自然エネルギーの日本へ

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第75号 2018年3月17日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿 2-5-15

電話・FAX 24-2870

佐藤 090-4925-3707